

VAD507 / VAD504 セットアップ・ガイド

本機を正しくお使いいただくために、ご使用前に本書と付属品の「安全上のご注意」と「使用上のご注意」（各取扱説明書に記載）をよくお読みください。お読みになったあとは、すぐに見られるところに保管しておいてください。

© 2022 Roland Corporation

1 同梱物を確認しよう

パッケージを開いたら、すべてのものが入っているか確認してください。不足している場合は、お買い上げになった販売店にお問い合わせください。

※ このパッケージには、キック・ペダル、ハイハット・スタンド、スネア・スタンドは含まれていません。市販のものをお使いください。

※ パッド類の取り付けに使うドラム・キーは、ドラム音源の梱包箱に入っています。

VAD507 / VAD504 パーツ

- KD-200 (ベース・ドラム) × 1
- TD-27 (ドラム音源) × 1
- PD-140DS (デジタル・スネア) × 1
- CY-18DR (デジタル・ライド) × 1
- VH-14D (デジタル・ハイハット) × 1
- CY-14C-T (クラッシュ 1) × 1
- DCS-30 (ドラム・コンビネーション・スタンド) × 1
- DBS-30 (ドラム・ブーム・スタンド) × 1
- PDA140F (フロア・タム) × 1
- PDA100 (タム 1) × 1
- APC-10 (オール・パーパス・クランプ) × 1

TD-27 同梱

- 音源マウンティング・プレート × 1
- ドラム・キー × 1
- 蝶ネジ × 2
- 専用接続ケーブル × 1

PD-140DS、CY-18DR、VH-14D 同梱

- 接続ケーブル × 3

PDA140F 同梱

- 脚 × 3

VAD507 のみ

- DCS-30 (ドラム・コンビネーション・スタンド) × 1
- PDA120 (タム 2) × 1

- CY-16R-T (クラッシュ 2) × 1
- トリガー・ケーブル × 1

取扱説明書

- VAD507 / VAD504 セットアップ・ガイド (本書)
- TD-27 クイック・スタート
- KD-200 取扱説明書
- PD-140DS 取扱説明書
- CY-18DR 取扱説明書
- VH-14D 取扱説明書
- CY-16R-T / CY-14C-T 取扱説明書
- DBS-30 / DCS-30 取扱説明書
- PDA100 / PDA120 / PDA140F 取扱説明書
- APC-10 取扱説明書

2 ハイハット (VH-14D) を組み立てよう

「VH-14D 取扱説明書」の手順に従って、ハイハットを組み立ててください。

- ボトム・シンバルをシンバル・ロッドを通してハイハット・スタンドのシンバル受け部分のフェルト部品 (あるいはゴム部品) の上に載せます。
- クランプの端をボトム・シンバル金属部分の溝に通し、クランプを十分な力で下に引っ張りながら、ドラム・キーで固定します。
- ボトム・シンバルのリンク端子 A/B にトップ・シンバルのリンク・ケーブル A/B を接続します。
横から見た図

※ 組み立てるときに、リンク・ケーブルを強く引っ張らないようにしてください。

※ 上下のハイハットがスムーズに開閉できることを確認してください。

3 スタンドをセッティングしよう

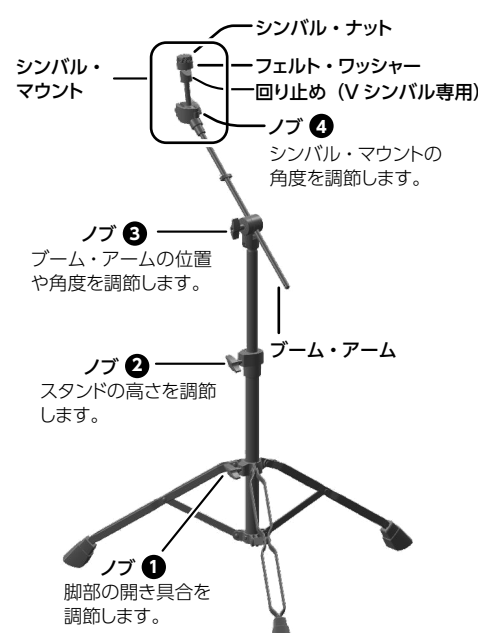
※ シンバル・マウントやタム・ホルダーなどの先端はとがっています。取り扱いに注意して作業してください。

※ スタンドのセッティングや収納をするときは、スタンドを持っている指を挟まないように注意してください。

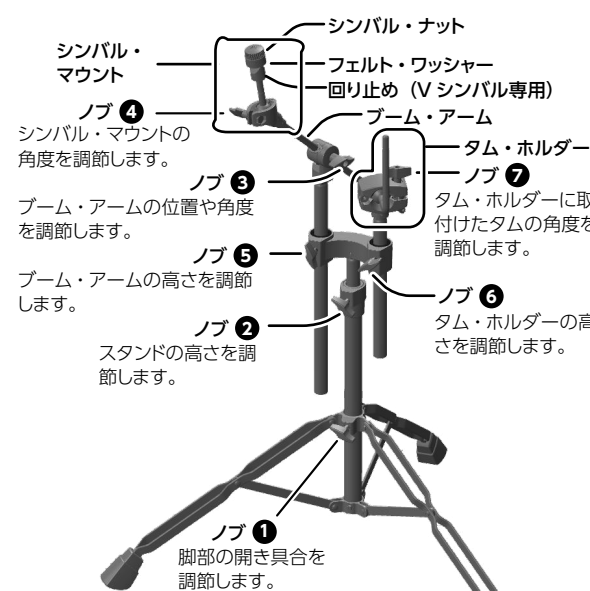
セッティングの手順

図のようにスタンドをセッティングします。

ブーム・スタンド (DBS-30)

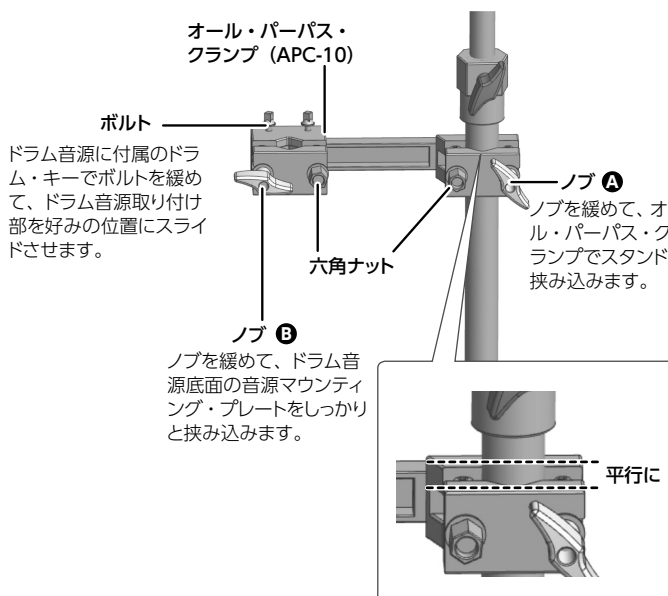


コンビネーション・スタンド (DCS-30)



オール・パーパス・クランプをスタンドに取り付けます。

ハイハット・スタンド (市販品)



注意 スタンド

- ・設置するときは、スタンドの三脚を十分に開いて使用してください。三脚の開き具合が不十分だと、適切な安定性が得られない場合があります。
- ・ブーム・アームを長く引き出して使用するときは、シンバルが三脚のうち 1 本の脚の真上にくるようにすると安定性が増します。
- ・タム・ホルダーにタムを取り付けるときも同様に、タムが三脚のうち 1 本の脚の真上にくるようにすると安定性が増します。
- ・タムやシンバルの高さや角度を調節するときにノブを緩めると、パイプやパッド類の落下によって指を挟む恐れがあります。片手でタムやパイプ、シンバル・マウントを支えながらゆっくりとノブを緩めてください。
- ・転倒や落下を防止するため、ノブに緩みがないように締めてください。またノブ③で角度を調節するギアは、しっかりと噛み合わせた状態で固定してください。

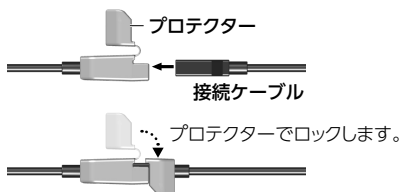
注意 オール・パーパス・クランプ

- ・挟み込むパイプ径に応じて、六角ナットの締め込み具合を調節してください。ノブ②とノブ③を締め付けたときに、クランプが本体と必ず平行になるようにしてください。
- ・ドラム音源取り付け部を外側にスライド過ぎないようにご注意ください。不安定な状態になり、ドラム音源が落下する恐れがあります。

4 各パーツを取り付けよう

ハイハット (VH-14D) を設置する

VH-14D の DIGITAL TRIGGER OUT 端子に、VH-14D 付属の接続ケーブルのプラグを差し込みます。



※ 演奏中は常に、図のようにトップ・シンバルとボトム・シンバルのマーク (●) の位置を合わせておいてください。マークがずれると誤動作をすることがあります。

取り付け可能なハイハット・スタンド

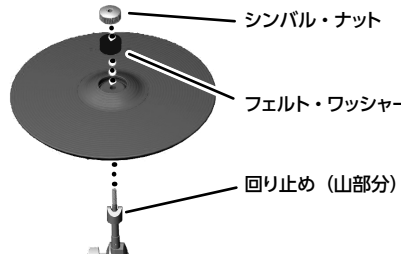
直径: 6.0 ~ 7.0mm

直径: 最大 11.7mm

クラッシュ・シンバル (CY-14C-T / CY-16R-T) とライド・シンバル (CY-18DR) を取り付け

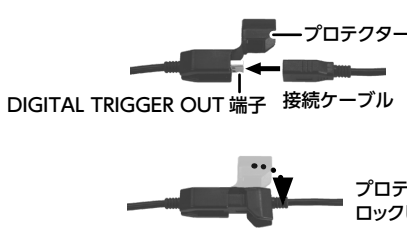
- シンバル・マウントの回り止め (山部分) とシンバル底面の谷部分が合うように載せます。
- 適度な揺れが得られるように、シンバル・ナットを締めます。

※ ドラム・スタンドに付属のシンバル・ナットとフェルト・ワッシャーをお使いください。



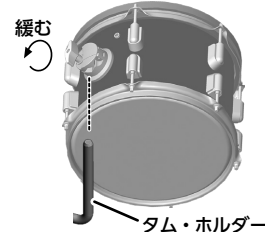
ライド・シンバル (CY-18DR) の DIGITAL TRIGGER OUT 端子に、CY-18DR 付属の接続ケーブルのプラグを差し込みます。

※ ライド・シンバル (CY-18DR) は、長いケーブルで接続してください。



※ 図は、VAD507 です。(CY-16R-T、PDA120 は、VAD507 にも同梱されています)

タム (PDA100 / PDA120) を取り付け



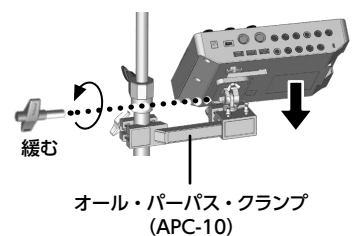
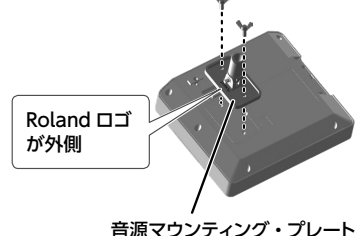
フロア・タム (PDA140F) を設置する

フロア・タムに脚を取り付けます。フロア・タムの脚の曲がった部分が、円周に対して直角に外に出るように取り付けます。



ドラム音源 (TD-27) を取り付け

- 付属の蝶ネジを使って、音源マウンティング・プレートをドラム音源に取り付けます。
- スタンドに取り付けたオール・パーパス・クランプに、音源マウンティング・プレートを差し込みます。
- ドラム音源に付属のドラム・キーで、音源マウンティング・プレートの角度を調節します。



スネア (PD-140DS) をスネア・スタンドに取り付ける

スネア・スタンド (市販) に取り付け使用してください。

※ 必ず 14 インチのスネアに対応した、スネア・スタンドをお使いください。

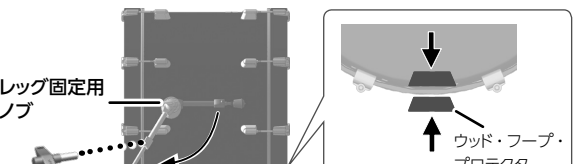
スネア (PD-140DS) の DIGITAL TRIGGER OUT 端子に、PD-140DS 付属の接続ケーブルのプラグを差し込みます。



キック・ペダル (KD-200) を取り付け

- レッグ固定用ノブを緩め、レッグの角度を調節してから、レッグ固定用ノブを締めます。
- ベース・ドラムのキック・ペダル取り付け位置に、ウッド・フープ・プロテクターを貼ります。
- キック・ペダルの取り付け位置に、キック・ペダルを装着します。
- キック・ペダルのピーターが、ベース・ドラムの打面中央に当たるように位置を調節します。

レッグの長さが左右均等になるように、ドラム・キーを使ってロッドの長さを調節します。



キック・ペダルの装着方法については、お使いのキック・ペダルの取扱説明書をご覧ください。



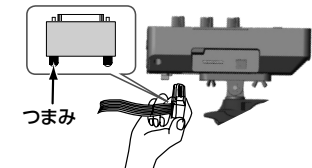
4 5 1 0 0 0 7 9 5 0 9 - 0 1 4

5

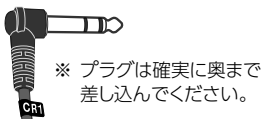
パッドとドラム音源を接続しよう

接続の手順

1. 専用接続ケーブルを、ドラム音源底面の TRIGGER INPUT 端子に接続します。コネクターを奥まで差し込み、つまみを回して固定してください。

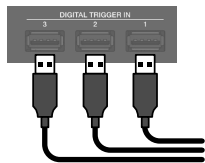


2. 専用接続ケーブルには、接続するパッドを示したラベルが貼られています。下図を参考に接続してください。



3. スネア (PD-140DS) とライド・シンバル (CY-18DR)、ハイハット (VH-14D) は、付属の接続ケーブルを使って、ドラム音源背面の DIGITAL TRIGGER IN 端子に接続します。

※ 1～3 のどこに接続しても構いません。

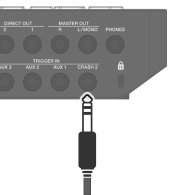


VAD507 のみ

4. クラッシュ 2 は、付属のトリガー・ケーブルを使って、ドラム音源背面の CRASH 2 端子に接続します。

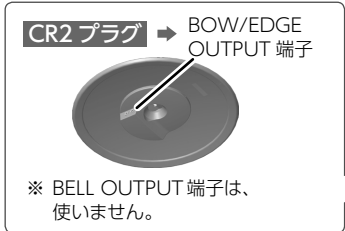
シンバル側

ドラム音源側



VAD507

正面から見た図



クラッシュ 2

ライド

T2

T1

CR1

ハイハット

スネア

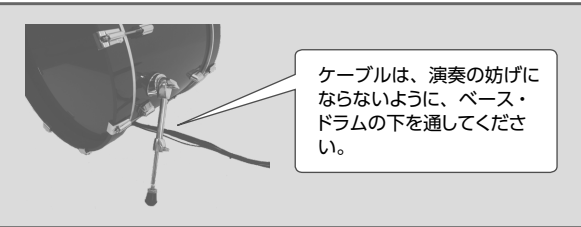
TD-27

KIK

打面側

OUTPUT 端子

KIK CR1 ケーブルの先に付いているラベル
専用接続ケーブル
トリガー・ケーブル (クラッシュ 2 用)
接続ケーブル (スネア、ライド、ハイハット用)



VAD504

正面から見た図

ライド

CR1

ハイハット

T1

スネア

TD-27

KIK

打面側

OUTPUT 端子

T2 のラベルが付いたケーブルは使いません。
演奏の妨げにならないように固定してください。

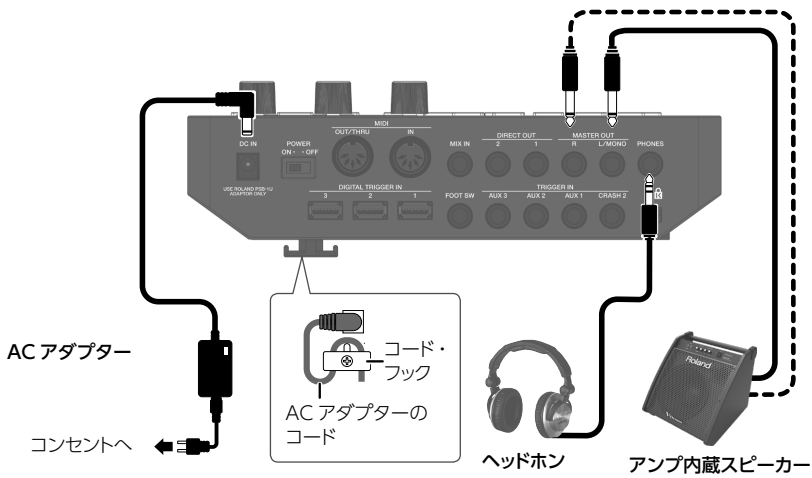
6

AC アダプターや
ヘッドホンを接続しよう

ドラム音源に AC アダプター、ヘッドホンやアンプ内蔵スピーカーを接続します。

※ 他の機器と接続するときは、誤動作や故障を防ぐため、必ずすべての機器の音量を絞り、すべての機器の電源を切ってください。

※ AC アダプターのコードは、ドラム音源底面のコード・フックを使って図のように固定してください。



これでセッティングと接続が完了しました。

■ 接続が完了したら『TD-27 クイック・スタート』の手順に従って電源を入れ、音が鳴るかを確認してください。

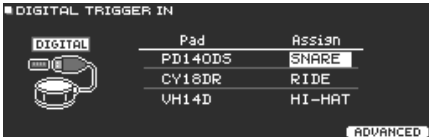
■ スネア (PD-140DS)、ライド・シンバル (CY-18DR)、ハイハット (VH-14D) の設定

デジタル接続対応のパッド (PD-140DS、CY-18DR、VH-14D) を初めて DIGITAL TRIGGER IN 端子に接続すると、以下の画面が表示されます。画面に従って、PD-140DS をスネアに、CY-18DR をライドに、VH-14D をハイハットに設定します。



※ 専用接続ケーブルや TRIGGER IN 端子につないだパッドと同じトリガー・インプットに割り当てると、TRIGGER INPUT 端子と TRIGGER IN 端子に接続したパッドの音は出力されません。

1. カーソル・ボタンで「OK」を選び、[ENTER] ボタンを押します。



2. カーソル・ボタンで「PD140DS」、「CY18DR」または「VH14D」を選びます。

3. ダイヤルで、「Assign」(アサイン) を設定します。

※ 同じアサインを複数設定することはできません。

設定例

Pad (パッド)	Assign (アサイン)
PD140DS	SNARE
CY18DR	RIDE
VH14D	HI-HAT

4. [DRUM KIT] ボタンを押して、DRUM KIT 画面に戻ります。
これで設定は完了です。

■ ハイハット (VH-14D) の調整

VH-14D を使用するときは、接続したあとに必ず TD-27 でオフセットとハイハットの調整をしてください。オープン、クローズやペダルの動きを正しく検出するために必要です。

オフセットを調整する

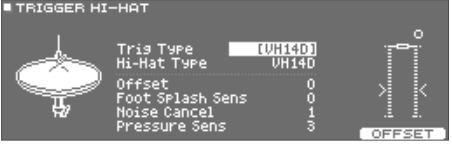
1. [SYSTEM] ボタンを押します。

2. カーソル・ボタンで「TRIGGER」を選び、[ENTER] ボタンを押します。

3. カーソル・ボタンで「HI-HAT」を選び、[ENTER] ボタンを押します。

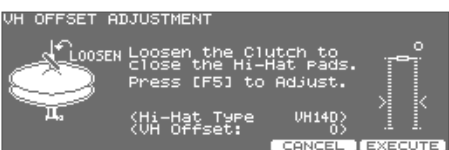
TRIGGER HI-HAT 画面が表示されます。

※ VH-14D が未接続、またはハイハットにアサインされていない場合は、Trig Type に VH-14D が表示されません。その場合は VH-14D を接続してハイハットにアサインします。



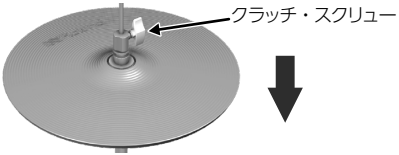
4. [F5] (OFFSET) ボタンを押します。

VH OFFSET ADJUSTMENT 画面が表示されます。

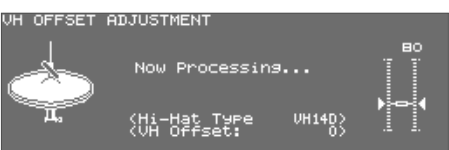


5. VH-14D のクラッチ・スクリューをゆるめ、ハイハットを閉じた状態にします。

※ ハイハット本体やペダルには触らないでください。



6. [F5] (EXECUTE) ボタンを押します。

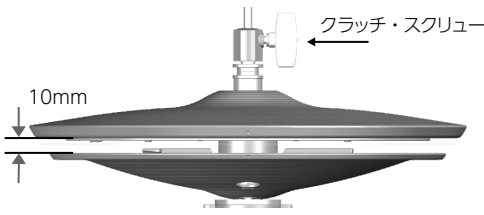


約 3 秒でオフセットが自動的に調整されます。

7. [DRUM KIT] ボタンを押して、DRUM KIT 画面に戻ります。

ハイハットを調整する

1. トップ・シンバルとボトム・シンバルの間隔を 10mm 程度に調整し、クラッチ・スクリューを締めつけます。



※ 間隔は演奏しやすい距離に調整できますが、狭すぎたり広すぎたりすると誤動作を起こし、思いどおりに演奏できないことがあります。10mm が最も自然な感じで VH-14D を演奏できる間隔です。

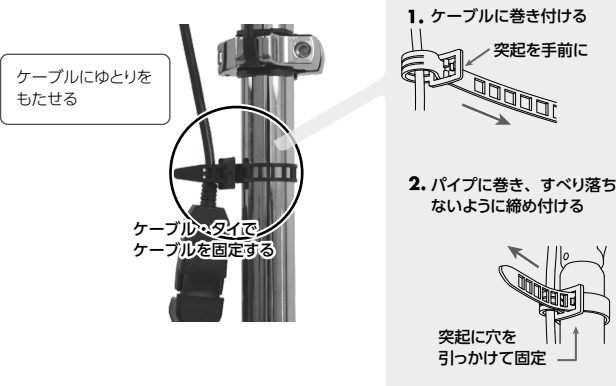
2. ペダルのバネのテンションを、ハイハット・スタンドで調整します。

テンションの調節方法については、お使いのハイハット・スタンドの取扱説明書をご覧ください。

※ バネのテンションが強すぎたり弱すぎたりすると、誤動作を起こし、意図した演奏ができないことがあります。

※ スタンドによっては、調節できない場合もあります。

ケーブルの固定方法



注意

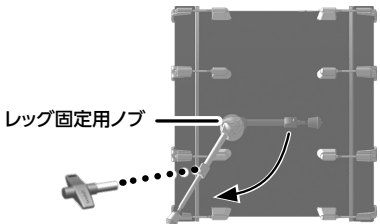
※ ご使用の年月とともに、パッドのゴム表面が変色することがありますが、使用上には影響ありません。

※ ハイハットの詳細については、「VH-14D 取扱説明書」をご覧ください。

■ ベース・ドラム (KD-200)

1 ベース・ドラムのレッグを立てます。

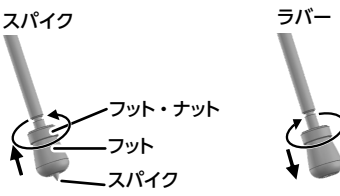
1. レッグ固定用ノブを緩め、レッグの角度を調節してから、レッグ固定用ノブを締めます。
レッグの長さが左右均等になるように、ドラム・キーを使ってロッドの長さを調節します。



2. 設置場所に合わせて、レッグの先端 (スパイク/ラバー) を調節します。

スパイク	柔らかい床面 カーペットなど
ラバー	固い床面 フローリング、コンクリートなど

フットナットを緩め、フットを回して上に動かすと、スパイク部分が出ます。
フット・ナットを締めると、フットの位置を固定できます。



※ スパイクの先端はとがっていますので、取り扱いに注意してください。
※ フローリングなどの床の上でスパイクを使うと、傷をつける恐れがあります。

2 キック・ペダルを取り付ける

1. ベース・ドラムのキック・ペダル取り付け位置に、ウッド・フープ・プロテクターを貼ります。



2. キック・ペダルの取り付け位置に、キック・ペダルをはめ込みます。
ピーターが打面中央に当たるようにキック・ペダルの取り付け位置を調整し、キック・ペダルと KD-200 を確実に固定します。



3. キック・ペダルを取り付けたあと、必要に応じてレッグの角度や長さを調節してください。

※ ピーターは、フェルト・ピーター、プラスチック・ピーター、ウッド・ピーターなどをお使いいただけます。
ただし、フェルト・ピーターを使ったときは、打面にフェルトの打痕が残る場合があります。

注意

- ・ KD-200 とキック・ペダルを確実に取り付けてください。
- ・ 指を挟まないよう、十分に注意しながら作業してください。

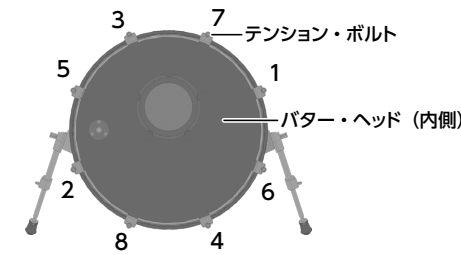
3 ヘッドの張り具合を調節する

演奏する前に、バター・ヘッドの張り具合を調節してください。張り具合によって、打感触を変えることができます。

1. それぞれのテンション・ボルトを、図のように対角線を結び順に少しずつ調節します。

※ 1 箇所のテンション・ボルトを一度に強く締めないでください。ヘッドを均一に張れないため、適切な打感触が得られなくなるだけでなく、誤動作の原因にもなります。

2. ヘッドの張り具合が均等になるように、各テンション・ボルトの締め具合を調節します。



注意

ヘッドの張り具合の調節は、打感触の調節をするもので、アコースティック・ドラムのように音の高さ (ピッチ) を調節するものではありません。ピッチは、ドラム音源の音色エディットで調節します。

参照

ベース・ドラムの詳細については、「KD-200 取扱説明書」をご覧ください。

■ スネア (PD-140DS)

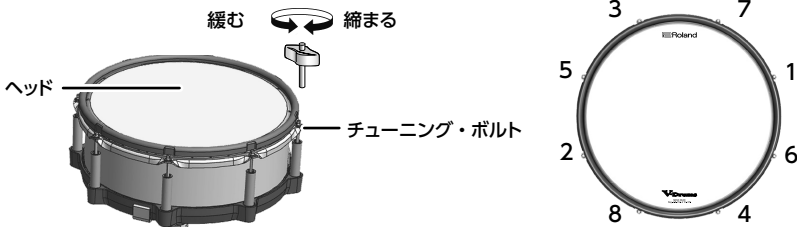
ヘッドの張り具合を調節する

1. それぞれのチューニング・ボルトを、図のように対角線を結び順に少しずつ調節します。

適切な打感触が得られる張り具合に調節してください。

2. パッドの打感触を確かめながら、さらに張り具合を微調整します。

※ 1 箇所のチューニング・ボルトを一度に強く締めないでください。ヘッドを均一に張れないため、適切な打感触が得られなくなるだけでなく、誤動作の原因にもなります。



注意

ヘッドの張り具合の調節は、打感触の調節をするもので、アコースティック・ドラムのように音の高さ (ピッチ) を調節するものではありません。ピッチは、ドラム音源の音色エディットで調節します。

参照

スネアの詳細については、「PD-140DS 取扱説明書」をご覧ください。

■ タム (PDA100 / PDA120 / PDA140F)

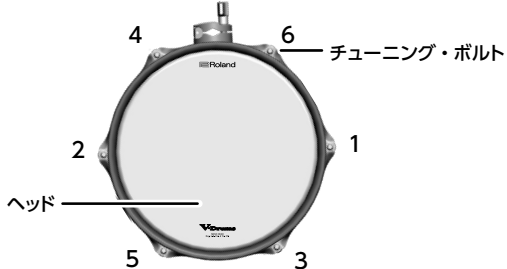
ヘッドの張り具合を調節する

1. それぞれのチューニング・ボルトを、図のように対角線を結び順に少しずつ調節します。

張り具合は、アコースティック・ドラムの打感触よりやや強めが適切です。

2. パッドの打感触を確かめながら、さらに張り具合を微調整します。

※ 1 箇所のチューニング・ボルトを一度に強く締めないでください。ヘッドを均一に張れないため、適切な打感触が得られなくなるだけでなく、誤動作の原因にもなります。



注意

ヘッドの張り具合の調節は、打感触の調節をするもので、アコースティック・ドラムのように音の高さ (ピッチ) を調節するものではありません。ピッチは、ドラム音源の音色エディットで調節します。

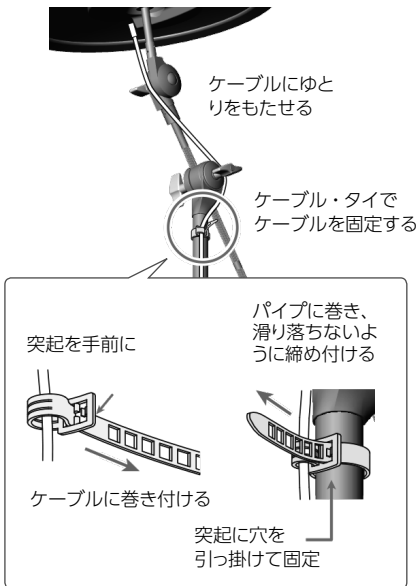
参照

タムの詳細については、「PDA100 / PDA120 / PDA140F 取扱説明書」をご覧ください。

■ クラッシュ・シンバル (CY-16R-T / CY-14C-T)

■ ライド・シンバル (CY-18DR)

ケーブルの固定方法



参照

シンバルの詳細については、「CY-16R-T / CY-14C-T 取扱説明書」または「CY-18DR 取扱説明書」をご覧ください。

注意

ご使用の年月とともに、パッドのゴム表面が変色することがありますが、使用上には影響ありません。

安全上のご注意

火災・感電・傷害を防止するには

⚠ 警告と ⚠ 注意の意味について

 警告	取り扱いを誤った場合に、使用者が死にまたは重傷を負う可能性が想定される内容を表しています。
 注意	取り扱いを誤った場合に、使用者が傷害を負う危険が想定される場合および物的損害のみの発生が想定される内容を表しています。 ※物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペットにかかわる拡大損害を表しています。

図記号の例

	⚠ は、注意（危険、警告を含む）を表しています。具体的な注意内容は、⚠ の中に描かれています。左図の場合は、「一般的な注意、警告、危険」を表しています。
	⊘ は、禁止（してはいけないこと）を表しています。具体的な禁止内容は、⊘ の中に描かれています。左図の場合は、「分解禁止」を表しています。
	● は、強制（必ずすること）を表しています。具体的な強制内容は、● の中に描かれています。左図の場合は、「電源プラグをコンセントから抜くこと」を表しています。

以下の指示を必ず守ってください

 警告

次のような場所で使用や保管はしない

- ・温度が極端に高い場所（直射日光の当る場所、暖房機器の近く、発熱する機器の上など）
- ・水気の近く（風呂場、洗面台、濡れた床など）や湿度の高い場所
- ・漏気や油煙が当たる場所
- ・塩害の恐れがある場所
- ・雨に濡れる場所
- ・ほこりや砂ぼこりの多い場所
- ・振動や揺れの多い場所
- ・風通しの悪い場所

指定のスタンドを使用する

本機の設定には、ローランドが推奨するスタンド（DCS シリーズ、DBS シリーズ）とオール・パーパス・クランプ（APC-10）を使用してください。

不安定な場所に設置しない

本機の設置にスタンド（DCS シリーズ、DBS シリーズ）とオール・パーパス・クランプ（APC-10）を使用する場合、ぐらつくような場所や傾いた場所に設置せず、安定した水平な場所に設置してください。機器を単独で設置する場合も、同様に安定した水平な場所に設置してください。

お子様がけがをしないように注意する

お子様のいる場所で使用する場合やお子様が使用する場合、必ず大人のかたが、監視・指導してあげてください。

 警告

落としたり、強い衝撃を与えない
破損や故障の原因になります。

 注意

指定のスタンドのみ使用する

本機は当社製のスタンド（DCS シリーズ、DBS シリーズ）とオール・パーパス・クランプ（APC-10）とのみ、組み合わせて使用できるよう設計されています。他のスタンドと組み合わせ使用と、不安定な状態となって落下や転倒を引き起こし、けがをする恐れがあります。

スタンドを使う前に安全を確認する

取扱説明書に記載の注意事項が守られていても、取り扱いによってはスタンドから本機が落下したりスタンドが転倒したりする可能性があります。使用にあたっては事前に安全を確認した上でお使いください。

電源コードやケーブルは煩雑にならないように配線する

足に引っかけると、本機の落下や転倒などにより、けがの原因になることがあります。

上に置いたり、重いものを置いたりしない

転倒や落下によって、けがをする恐れがあります。

 注意

移動するときはすべての接続をはずす

ケーブルを接続したまま移動すると、破損や故障の原因になります。

指などをはさまないように注意する

下記の可動部を操作するときは、指などをはさまないように注意してください。必ず大人のかたが操作してください。

- ・スタンド類
- ・ペダル類
- ・ノブ類

小さな部品はお子様の手が届かないところに置く

下記の部品はお子様がついて飲み込んだりすることのないよう手の届かないところへ保管してください。

付属品

- ・ケーブル・タイ
- ・蝶ネジ
- ・ドラム・キー

取りはずしが可能な部品

- ・ネジ類
- ・ワッシャー類
- ・ナット類
- ・フェルト・ワッシャー
- ・スプリング
- ・ノブ
- ・端子保護キャップ（専用接続ケーブルに付属）

使用上のご注意

修理について

・お客様が本機または付属品を分解（取扱説明書に指示がある場合を除く）、改造された場合、以後の性能について保証できなくなります。また、修理をお断りする場合があります。

・当社では、本機の補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打切後 6 年間保有しています。この部品保有期間を修理可能な期間とさせていただきます。なお、保有期間を過ぎたあとも、故障箇所によっては修理可能な場合がありますので、お買い上げ店、またはローランドお客様相談センターにご相談ください。

その他の注意について

・故障の原因になりますので、ボタン、つまみ、入出力端子などに過度の力を加えないでください。

・本機は、演奏時の打撃音を小さくする設計になっていますが、床や壁を通しての振動は意外によく伝わります。特にヘッドホン使用時の演奏は、隣近所に迷惑がからないように注意しましょう。

・本機が入っていた梱包箱や緩衝材を廃棄するときは、各地域のゴミの分別基準に従ってください。

・本書は、発行時点での製品仕様を説明しています。最新情報についてはローランド・ホームページをご覧ください。

知的財産権について

・第三者の著作物（音楽作品、映像作品、放送、実演、その他）の一部または全部を、権利者に無断で録音、録画、複製あるいは改変し、配布、販売、貸与、上演、放送などを行うことは法律で禁じられています。

・第三者の著作権を侵害する恐れのある用途に、本製品を使用しないでください。お客様が本製品を用いて他者の著作権を侵害しても、当社は一切責任を負いません。

・製品に内蔵、付属されたコンテンツ（音色波形データ、スタイルデータ、伴奏パターン、フレーズデータ、オーディオループ、画像データなど）の著作権は当社が保有しています。

・製品に内蔵、付属されたコンテンツ（ただしデモ曲などの楽曲データは除く）を素材として、お客様が新たな作品を制作、演奏、録音、配布することに関しては、当社の許諾を必要としません。

・製品に内蔵、付属されたコンテンツを、そのまま、もしくは酷似した形態で取り出し、別の記録媒体に固定して配布したり、コンピューター・ネットワークを通じて公開したりすることはできません。

・SD ロゴ および SDHC ロゴ は SD-3C、LLC の商標です。

・ASIO は、Steinberg Media Technologies GmbH の商標およびソフトウェアです。

・本製品には、イートン株式会社ソフトウェアプラットフォーム「eParts™」が搭載されています。

・Bluetooth® のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標であり、ローランドはこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。

・本製品は、T-Engine フォーラム（www.tron.org）の T-license 2.0 に基づく T-kernel ソースコードを利用しています。

・Roland、BOSS は、日本国およびその他の国におけるローランド株式会社の登録商標または商標です。

・文中記載の会社名および製品名などは、各社の登録商標または商標です。

お問い合わせの窓口

 ホームページをご覧ください

Roland製品

電子楽器製品（電子ピアノ、電子ドラム、シンセサイザーなど）

https://roland.cm/roland_support



プロAV製品（ビデオ・ミキサー、業務用映像音響機器など）

https://roland.cm/proav_support



BOSS製品

https://roland.cm/boss_support



'22. 02. 01 現在